

取扱説明書

保証書

このたびはお買いいただき、ありがとうございます。

- ご使用前に、必ずこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 本書は、いつでもご覧になれる場所に大切に保管してください。
- 本製品を他の方にお譲りになるときには、必ず本書もあわせてお渡しください。
- 経年劣化があるので、不測の事態を避ける為、お買上日より3年を超えたご使用はお控えください。

安全にお使いいただくために

お子様の対象月齢

- 横抱っこ：生後10日から首すわり(4ヶ月、体重7kg)まで
 - 縦抱っこ：首すわり(4ヶ月)から24ヶ月(体重13kg)まで(対面抱っこのみ)
インサートパッドが装着されている場合、生後1ヶ月から使用可能
 - おんぶ：首すわり(4ヶ月)から36ヶ月(体重15kg)まで
- ※早産児・呼吸器疾患児等の場合は医師にご相談ください。

使用できる装着者の
ウエストサイズ

着衣後約135cmまで

⚠警告 誤った取り扱いをすると、人が死亡または重症を負う可能性が想定される内容です。

落下の危険性：お子様が開口部から落下する恐れがあります。

- この取扱説明書をよく読み、正しく調節し、全固定箇所を確実に締めて使用してください。
- 身体を傾ける際には、お子様を手で支えて落下しないように注意してください。
- 大きく前屈みをせず、ものを拾うときは、お子様の頭が下向きにならないように、ひざを曲げて腰を落としてください。
- 横抱っこでは、抱っこひもの上から必ず手を添えて、乳幼児を抱くようにして使用してください。お子様の頭が下になったり、装着者の身体から離れた状態にならないようにしてください。
- ご使用前には製品全体を点検し、製品に切れ・破れ・ヒビ等の破損がある場合は使用しないでください。

窒息の危険性：特に生後4ヶ月未満のお子様は、装着者の身体に顔が強く押し当てられた場合、本製品内で窒息する可能性があります。

- お子様を装着者の身体に強く縛り付けずに、お子様の頭部を動かせる余裕があるように装着してください。
- お子様の気道をふさぐことがない等、常に状態に注意して使用してください。
- インサートパッド付製品の場合でも、早産児及び呼吸器疾患等のある乳幼児は、生後1ヶ月でも縦抱っこをお控えください。

⚠注意 誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が生じる可能性が想定される内容です。

準備・着脱時の注意：

- 着脱は安全な場所で可能な限り低い姿勢で注意して行ってください。特に慣れないうちや、おんぶは介添えてもらってください。
- 首のすわらないお子様には、必ずインサートパッドを使用してください。
- ご使用前に、バックル等の固定部が確実にとめられていること、特にサポートバックルを必ず確認してください。
1箇所でも破損している場合は使用しないでください。装着後もゆるみがないかを確認してください。
- 抱っこで使用する場合、お子様の頭で前方、特に足下の視界が妨げられないように装着し、歩行時もお注意ください。
- 縦抱っこは全てお子様と装着者が向き合う対面抱っこのみです。

ご使用に際しての注意：

- バックルの開口部にお子様の手指が入らないように、使用しないときでもバックルをはめ込んでおいてください。
- 授乳後30分間は使用しないでください。お子様のおなかを圧迫し、消化吸収をさまたげるおそれがあります。
- 連続2時間以上の使用はしないでください。お子様の体調や装着状況を常に確認してください。
- 体調がすぐれない時や、身体に痛みを感じたら、ご使用をお控えください。
- 飛行機、車、バイク、自転車では使用しないでください。
- 料理や掃除等の家事でのご使用に際しては、火気によるやけど、屈むことによる転落、ホコリ、飛散物、衝突等に十分ご注意ください。
- 製品を火気の近く、屋外、直射日光のあたる場所に放置・保管しないでください。
- 汗や水で湿った状態で摩擦を受けると他に色が移染する場合があります。
- 製品の改造はしないでください。
- ポケット等には硬いもの、とがったものを入れないでください。
- 目的外の使用はしないでください。

★ご購入時は「横抱っこ」ができるようになっていきます。4・5ページ参照ください。

安心のSGマーク付(2015年3月改訂版に対応)

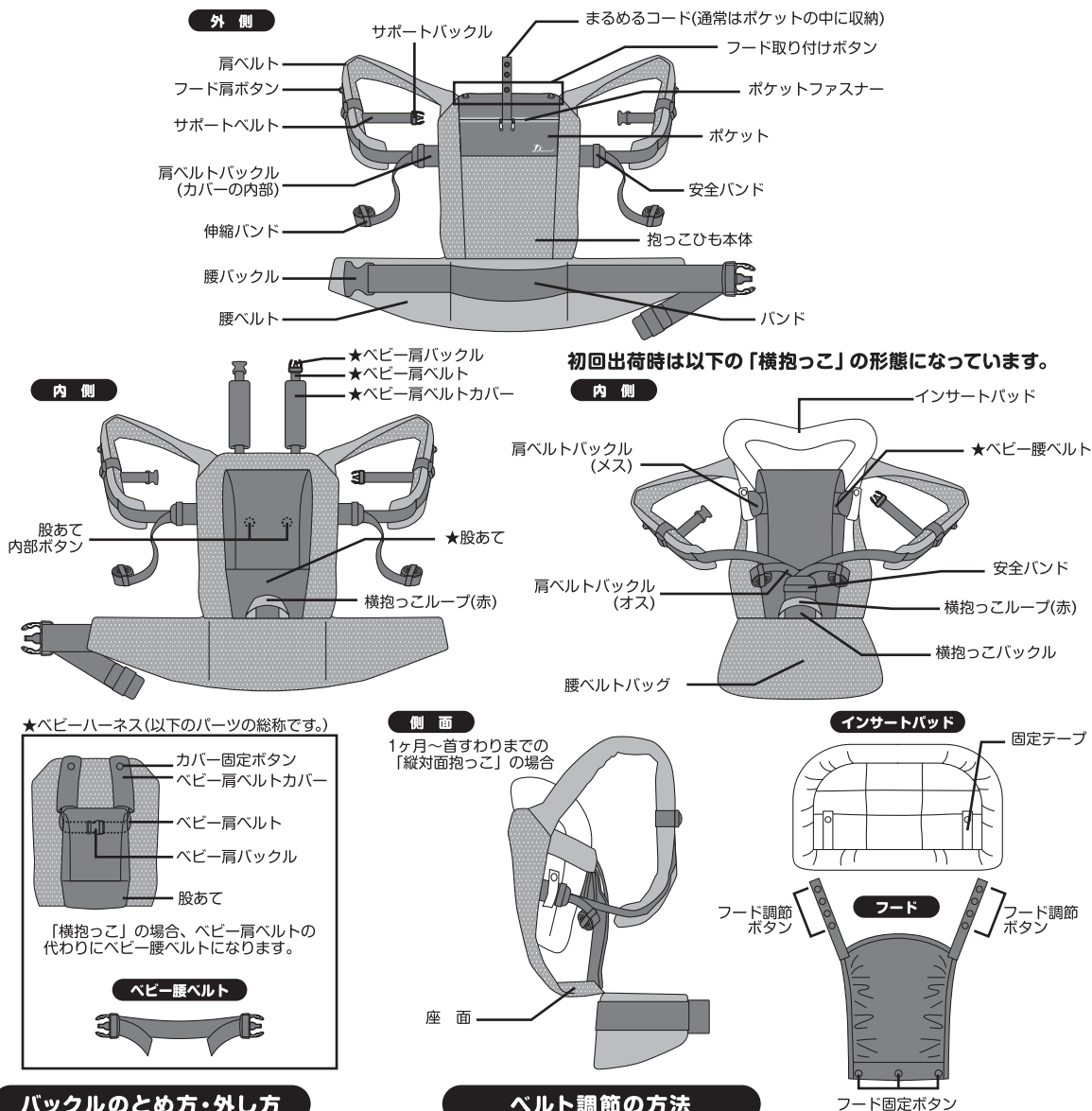
- SGマーク付き製品は安全性が高く、安心してお使いいただけます。
- SGマーク制度は、SGマーク付き製品の欠陥により人身事故が発生した場合に、製品安全協会が賠償措置を行う制度です。
- 抱っこひもの場合は、お買上日から3年間有効です。
- 製品そのものが故障した場合に補償するものではなく、他の物に生じた損害(物的損害)を賠償するものではありません。製品の欠陥によって傷害等の身体的な損害(人的損害)について賠償する制度です。
- 詳細は、一般財団法人製品安全協会のホームページ <http://www.sg-mark.org/> を参照ください。



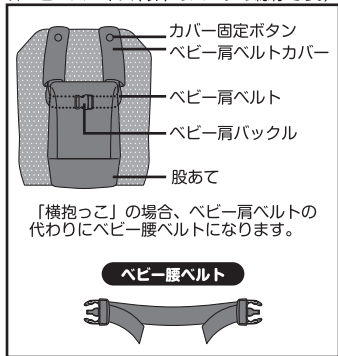
箱を開けたら

- 以下の「各部名称」で説明されているものが入っているか、破損がないかを確認してください。
- 欠品や破損の場合は、お買上の販売店またはお客様窓口にご連絡ください。

各部名称と注意事項



★ベビーハーネス(以下のパーツの総称です。)

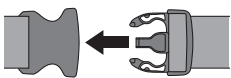


「横抱っこ」の場合、ベビー肩ベルトの代わりにベビー腰ベルトになります。

ベビー腰ベルト

バックルのとめ方・外し方

取り付ける時



取り外す時



「カチッ」と音がしてから引っ張って確認してください。

▼印の箇所を押して、抜いてください。

ベルト調節の方法

短くする時



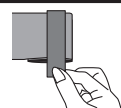
ベルトが引きにくいときはバックルやアジャスターを立ててください。

長くする時



バックルやアジャスターを立ててベルトを引いてください。

余ったベルトの処理



ベルトの端の伸縮バンドでまとめてください。

各々の抱き方に必要な部品

	月齢	抱っこひも本体	インサートパッド	腰ベルトバッグ	ベビー腰ベルト
横抱っこ	10日～4ヶ月	○	○	○	○
縦対面抱っこ	1ヶ月～4ヶ月	○	○		
縦対面抱っこ	4ヶ月～24ヶ月	○			
おんぶ	4ヶ月～36ヶ月	○			

各々の抱き方におけるお子様の位置関係

横抱っこと縦抱っこ・おんぶ、お子様とインサートパッド・股あての位置関係

以下の図を参考にして、月齢にあった位置調節をしてください。

この図は、装着前にベビーベッド等の安全な場所で寝かせてセットする絵です。各々の月齢で①から番号順に調節してください。横抱っこの場合はそのままの体勢で抱き上げ、縦対面抱っこ・おんぶの場合はお子様の頭を上にして抱き上げます。

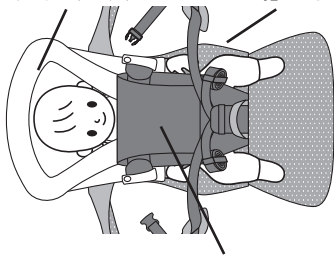
横抱っこ

生後10日～首すわり(4ヶ月) 4・5ページ参照。

頭の位置を基準に調節します。

- ・頭頂部がインサートパッドの頭当て(チューブ形状部分)よりも下。
- ・抱っこひも本体がたいらで、股あてを曲げます。

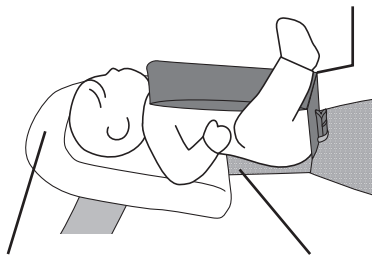
インサートパッド 抱っこひも本体



股あて

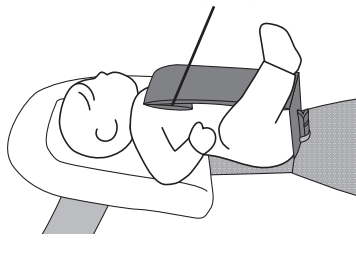
①お子様の頭頂部がインサートパッドの頭当て(チューブ形状部分)よりも下になるようにします。

③股あてを縫目部分から曲げてください。



②抱っこひも本体はたいらに、お子様の股が、股あての立ち上がり部分に来るようにします。

④股あてが、お子様のおごにかかる場合には股あて上部を折り返します。



※5ページの④～⑥を参照。

縦対面抱っこ

生後1ヶ月～首すわり(4ヶ月) 6・7ページ参照。

頭の位置を基準に調節します。

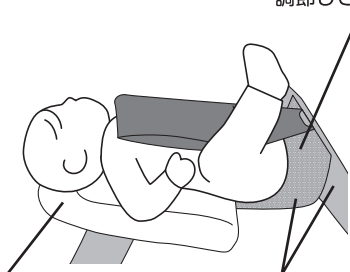
- ・側頭部がインサートパッドの頭当て(チューブ形状部分)に当たる。
- ・腰ベルトを立てて抱っこひも本体を曲げ、股あてはたいらにします。

③ここが座面になるので、お子様の股と隙間がある場合には巻いたタオル等で調節してください。

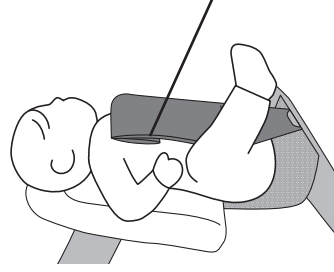
④股あてが、お子様のおごにかかる場合には股あて上部を折り返します。



①お子様の側頭部がインサートパッドの頭当て(チューブ形状部分)に当たるようにします。



②腰ベルトを立てて、抱っこひも本体を曲げてください。



※6ページの「股あての調節」を参照。

縦対面抱っこ・おんぶ

首すわり(4ヶ月) 6・8・9ページ参照。

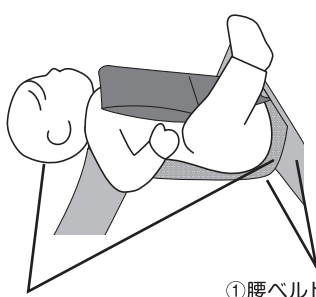
お尻の位置が基準になります。

- ・腰ベルトを立てて抱っこひも本体を曲げ、股あてはたいらにします。

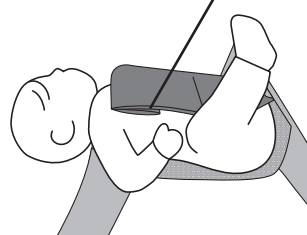
③股あてが、お子様のおごにかかる場合には股あて上部を折り返します。



②お子様が抱っこひも本体の中に隠れてしまう場合には、股の下に巻いたタオル等を敷いて調節してください。



①腰ベルトを立てて、抱っこひも本体を曲げてください。



※6ページの「股あての調節」を参照。

横抱っこ

生後10日～首すわり(4ヶ月、体重7kg)

★全体を両手で包むように抱きあげ、肩ベルトは補助としてお使いください。



警告

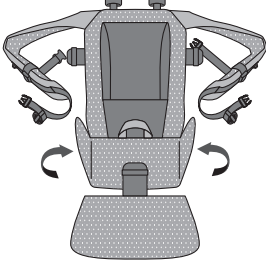
- 大切なお子様を落下事故から守ります。ご使用になる前にベビーベッドやソファ等のある安全な場所であらかじめ準備・調節しておいてください。
- 全ての調節部分を正しく調節し、正しく装着してください。
- 横抱っこでは、抱っこひもの上から必ず手を添えて、乳幼児を抱くようにして使用してください。お子様の頭が下になったり、装着者の身体から離れた状態にならないようにしてください。
- 必ずインサートパッドを使用してください。

準備

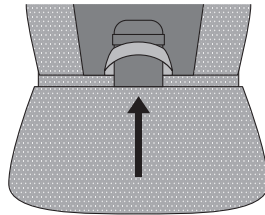
初回出荷時は、「横抱っこ」の形態になっていますが、「縦抱っこ」形態からは以下の様に準備してください。

腰ベルトバッグの装着

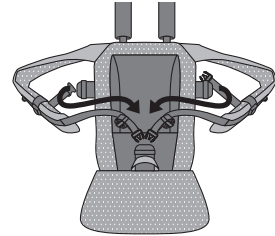
- ①腰ベルトを外側に折り込み、バックルを内側にしてまとめます。
- ②腰ベルトバッグを用意します。



- ③たたんだ腰ベルトを腰ベルトバッグに収納します。
- ④横抱っこバックルを横抱っこループ(赤)にくぐらせます。



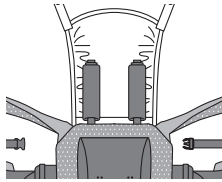
- ⑤肩ベルトバックル(オス)を肩ベルトバックル(メス)から外し、横抱っこバックルに差し込み、引っ張って確認します。



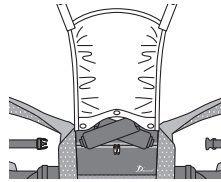
ベビー肩ベルトの処理

横抱っこではベビー肩ベルトを使用しませんので、下記のように収納してください。

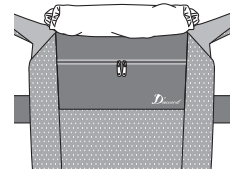
- ①ベビー肩ベルトバックルを一番短く調節し、余ったベルトや、オスバックルの頭を、ベビー肩ベルトカバーの中に押し込みます。



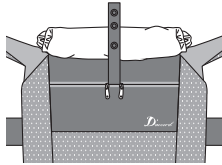
- ②フード固定ボタンの真ん中を外し、フードと抱っこひも本体の隙間から、ベビー肩ベルトを外に出します。



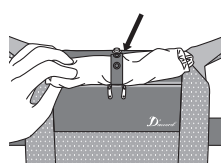
- ③フードを折りたたみ、フード調節ボタンとベビー肩ベルトを包み込みます。



- ④ポケットの中からまるめるコードを取り出し、左右のポケットファスナーを中央部に寄せます。



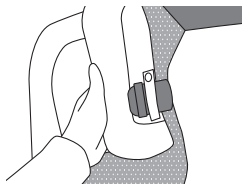
- ⑤まるめるコードで、フードを巻き、先端または2番目のまるめるボタンを②で外したフード固定ボタンの真ん中にとめます。



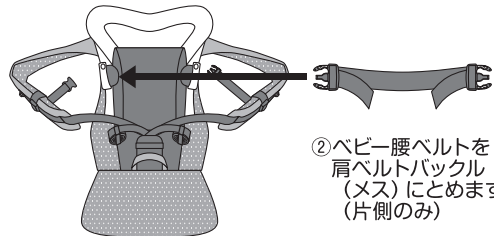
- ⑥フードのシワを取って終了です。フードを取り外して、ベビー肩ベルトのみをまとめても結構です。



インサートパッドとベビー腰ベルトの装着

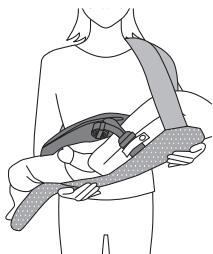


- ①インサートパッドの固定テープを肩ベルトバックル(メス)の外周にとめます。(左右とも)

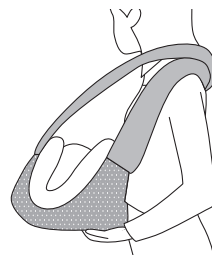


- ②ベビー腰ベルトを肩ベルトバックル(メス)にとめます。(片側のみ)

肩ベルト長さの調節



- ①お子様の頭が装着者の胸、お尻がウエスト近辺よりも上になるように、肩ベルトの長さを調節してください。

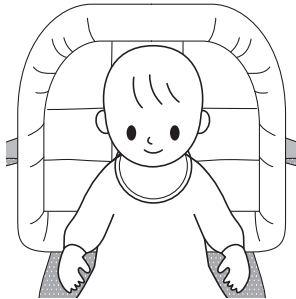


- ②装着者側の肩ベルトを若干短くしたほうが、お子様が水平になります。
- ③サポートベルトは最小長さにします。

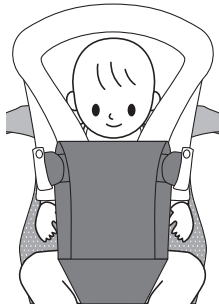
装着

抱っこひも本体の内側を上にして、ベッド等の安全な場所に広げてください。

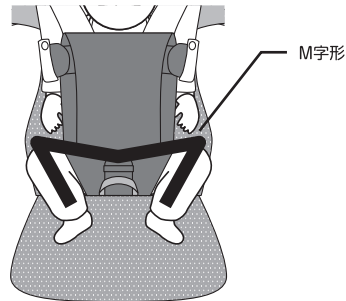
- ① お子様をインサートパッドの上に
乗せてください。
頭頂部がインサートパッドの
頭当て(チューブ形状部分)よりも
下にしてください。



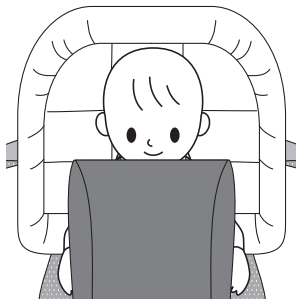
- ② 股あてを引き上げ、ベビー腰ベルトを
股あての筒部に通して、肩ベルトバックル
(メス)にとめてください。股あてと
お子様の隙間は指3本程度に、ベビー腰
ベルトのバックルを調節してください。



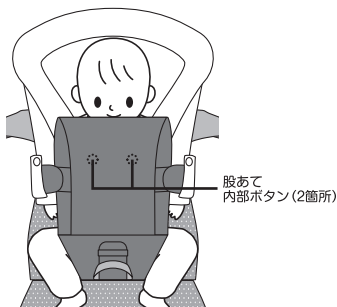
- ③ 股関節脱臼防止のため、
お子様の股関節がM字形に
なるようにして、装着者の身体等で
動きを妨げないようにしてください。



- ④ 股あて上部がお子様の
あごにかかる場合には、



- ⑤ ベビー腰ベルトを、股あての内部ボタンの
下を通して、肩ベルトバックル(メス)にとめ



- ⑥ 股あて上部をお子様側に
折り返してください。



注意

- ⑦ 持ち上げる前に下記のチェックをしてください。

チェック1: 頭頂部が、インサートパッドの頭あてより下

チェック2: 気道確保^{*1}、股あてとの間隔がある

チェック3: 胸に指3本分の余裕あり

チェック4: バックル類が確実にとめられている

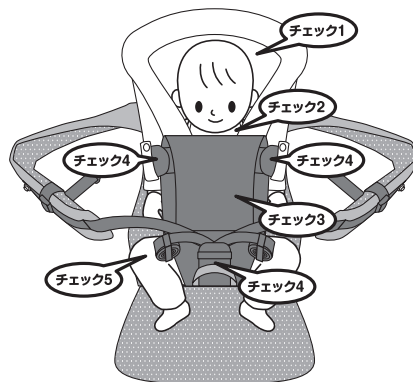
チェック5: 足がM字形で、動かせる

- ⑧ 肩ベルトのサポートバックルをとめ、肩ベルトを重ねて、
肩からかけてください。

- ⑨ お子様の頭が装着者の胸、お尻がウエスト近辺よりも
上にしてください。

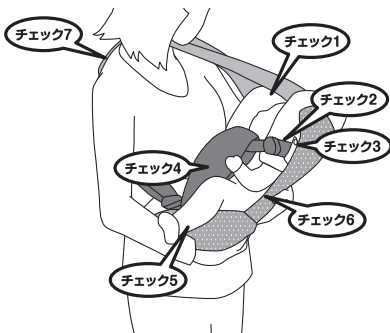
- ⑩ 横抱っこは、お子様をやわらかく・やさしく包み込む
方式ですので、肩ベルトで吊り下げるといより、

全体を両手で包むように抱きあげてください。



警告

- ① 鏡を使ったり、介添えの方をお願いして下記のチェックをしてください。



チェック1: 頭頂部が、インサートパッドの頭あてより下

チェック2: 気道確保^{*1}、股あてとの間隔がある

チェック3: お子様の頭はお尻よりも上

チェック4: お子様の手足が挟まれていない

チェック5: 足がM字形で、動かせる

チェック6: 無理な体勢になっていない

チェック7: サポートバックルが装着者の首に当たっていない

※1 気道確保:

お子様の口や鼻がふさがれていない、
のどを押し付けていない等、呼吸を
しやすくすることです。

「縦対面抱っこ」・「おんぶ」に共通の準備

- 警告** ●大切なお子様を落下事故から守ります。ご使用になる前にベビーベッドやソファ等の安全な場所であらかじめ準備・調節しておいてください。
●全ての調節部分を正しく調節し、正しく装着してください。

縦対面抱っこ・おんぶの形態

「横抱っこ」の形態になっていた場合、以下の様に「縦対面抱っこ」「おんぶ」の形態にしてください。

- ①ベビー肩ベルトを巻き込んでいた、まるめるコードとフードをほどき、ベビー肩ベルトは内側に、まるめるコードはポケットに戻します。
- ②ベビー腰ベルトを外します。
- ③横抱っこバックルから肩ベルトバックル(オス)を外し、肩ベルトバックル(メス)に差し込み、引っ張って確認します。
- ④横抱っこバックルを横抱っこループ(赤)から引き抜きます。
- ④腰ベルトバッグを引き抜きます。

外したベビー腰ベルトは腰ベルトバッグの横抱っこバックルに差し込んで、腰ベルトバッグとともに、次回の使用まで大切に保管してください。

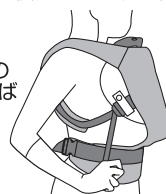
腰ベルトの調節

腰ベルトの長さを装着者に合わせて調節し、余ったベルトは伸縮バンドでまとめておいてください。



肩ベルトの調節

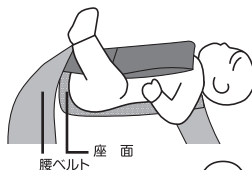
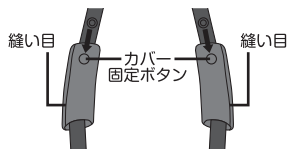
肩ベルトの長さは、左右の端をつかめるくらいに伸ばしておいてください。



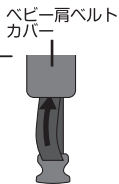
ベビーハーネスの調節

- ①ベビー肩ベルトカバーはカバー固定ボタンでベビー肩ベルトに固定してください。固定ボタンを外して洗うことができます。戻すときには、ボタンが上側、カバーの縫目がお子様の首に触れないように外側にしてください。
- ②ベビー肩ベルトの長さを調節します。その際、実際にお子様をのせ、座面がお子様のお尻に当たるように腰ベルトを立てると、ベルトの長さ調節やバックル操作が楽になります。
- ③お子様との隙間が大人のこぶし1個程度になるようにベビー肩ベルトの長さを調節してください。

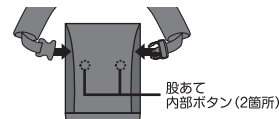
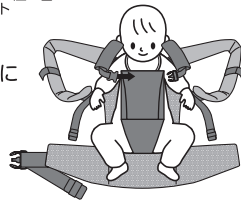
※2ページ「ベルト調節の方法」参照。



- ④長さを調節したあとのベビー肩ベルトはベビー肩ベルトカバーの中に押し込んでください。



- ⑤ベビー肩バックルが筒部の中にあるようにとめてください。



※股あて内部ボタン(2箇所)を外してから筒部の中でバックルをとめてください。

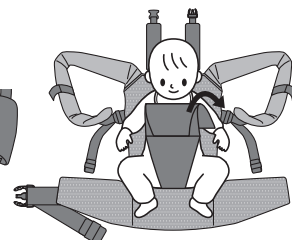
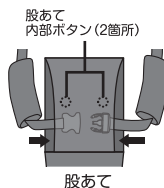
注意

バックルをとめる際、左右のバックルに股あての布等を挟まないようご注意ください。

股あての調節

- お子様が小さくてあごが股あてに触れる場合には、ベビー肩バックルを筒部の下部でとめてください。バックルとベルトが股あて内部ボタンよりも下方にあることを確認してから股あて内部ボタンをとめ、股あての上部をお子様側に折り返してください。お子様のお尻にタオル等を敷いて調節できれば、それでも結構です。

※インサートパッドを使用するときは、インサートパッドの上から同様に調節してください。



「縦対面抱っこ」に共通の準備

サポートベルトの調節

- ①サポートベルトの上下位置を、ご自分の背中中でとめられる高さに調節してください。下げすぎるとサポートバックルがとめにくく、上げすぎると首に負荷がかかります。一度両方の肩ベルトを前に引っ張ると、サポートバックルをつかみやすくなります。

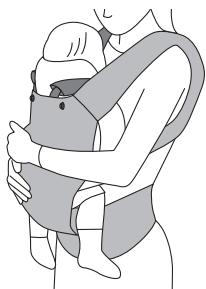


- ②サポートベルトの長さを調節し、余ったベルトは伸縮バンドでまとめておいてください。



縦対面抱っこ

生後1ヶ月～首すわり(4ヶ月、体重7kg)

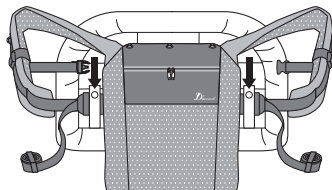


注意 抱っこするときには安全な場所を確保し、行ってください。

準備

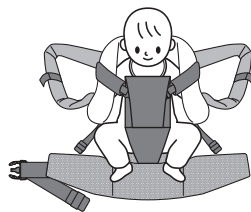
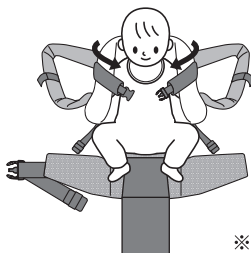
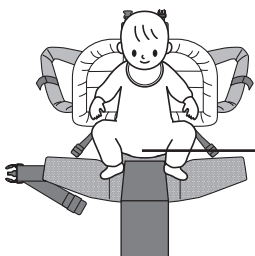
- ①「縦対面抱っこ」に共通の準備をご確認ください。
- ②インサートパッドが装着されていない場合は、図のように左右の固定テープで肩ベルトをまたいでボタンをとめ、取り付けてください。
- ③内側を上にして、ベッド等の安全な場所に広げてください。

※慣れないうちは他の方に介添えをお願いしてください。



装着

- ①お子様をインサートパッドの上に乗せてください。インサートパッドの頭当て(チューブ形状部分)が側頭部に当たる高さになります。
- ②3ページの「生後1ヶ月～首すわり」を参照し、腰ベルトを立てて座面を作ってください。座面とお子様のお尻に隙間がある場合には巻いたタオル等で調節してください。
- ③ベビー肩ベルトはインサートパッドの外側を回してください。
- ④インサートパッドの上からベビーハーネスを装着してください。



※6ページ「ベビーハーネスの調節」「股あての調節」を参照。

注意 バックルをとめる際、左右のバックルに股あての布等を挟まないようご注意ください。

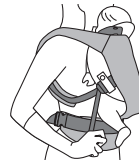
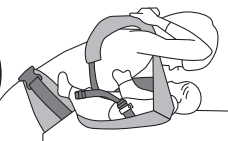
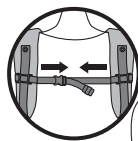
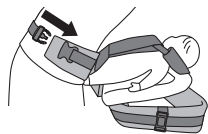
注意

- ⑤一度肩ベルトの付け根の外側に両手を添えて、持ち上げてから手を添えたまま座らせて、右記のチェックをしてください。

- チェック1: 頭が動かせて、かつ、ぐらつかない**
- チェック2: 気道確保^{※1} 股あてとの間隔がある**
- チェック3: 胸にこぶし1個分の余裕あり**
- チェック4: バックルが股あての筒部に通され 確実にとめられている**
- チェック5: 巻いたタオル等で調節した場合、お尻がズレていない**



- ⑥お子様を寝かせ、腰ベルトを装着し、腰バックルを確実にとめてください。
- ⑦肩ベルトに腕を通して、首の後ろでサポートバックルを確実にとめてください。最初にサポートバックルをつかっていると簡単です。
- ⑧抱っこひもの外側から、お子様の頭と背中を両手で支えて上体を起こしてください。
- ⑨肩ベルトを左右同じ長さに調節します。余ったベルトは伸縮バンドでまとめてください。



警告

- ⑩鏡を使ったり、介添えの方をお願いして、下記のチェックをしてください。

- チェック1: お子様の頭で、装着者の視界が妨げられない**
- チェック2: 気道確保^{※1}の再確認**
- チェック3: お子様の顔が装着者の胸に密着していない**
- チェック4: 頭が左右に動かせる**
- チェック5: お子様の手足が挟まれていない**
- チェック6: お子様の股関節・足がM字形で、全体が無理な体勢になっていない**



※1 気道確保: お子様の口や鼻がふさがれていない、のどを押し付けていない等、呼吸をしやすくすることです。

※お子様をおへそより上にすると、しっかりかつ楽にだっこできます。ご自身の最適位置を探ってください。

縦対面抱っこ 首すわり(4ヶ月)～24ヶ月(体重13kg)

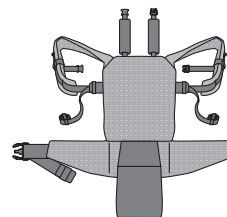


注意 抱っこするときには安全な場所を確保し、行ってください。

準備

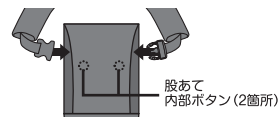
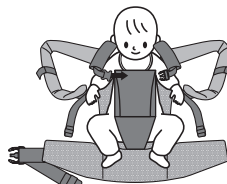
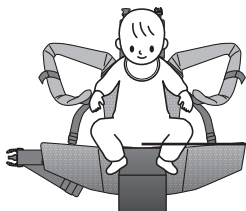
- ①「縦対面抱っこ」に共通の準備をご確認ください。
- ②インサートパッドが装着されている場合は、外してください。内側を上にしてベッド等の安全な場所に広げてください。

※慣れないうちは他の方に介添えをお願いしてください。



装着

- ①3ページを参照し、腰ベルトを立てて座面を作ってください。
- ②お子様の顔が抱っこひもの中に隠れてしまう場合は、タオルを巻いた物等を座面に敷いて調節ください。座面がお子様のお尻に当たるように腰ベルトを立てると、わかりやすくなります。
- ③ベビーハーネスを装着してください。
- ※6ページ「ベビーハーネスの調節」「股あての調節」を参照。



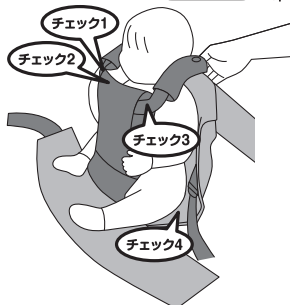
※ベビー肩バックルが筒部の中にあるようにとめてください。 ※股あて内部ボタン(2箇所)を外してから筒部の中でバックルをとめてください。

注意 バックルをとめる際、左右のバックルに股あての布等を挟まないようご注意ください。

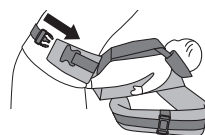
注意

④一度手を添えて座らせて、下記のチェックをしてください。

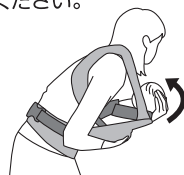
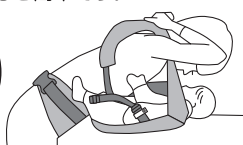
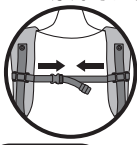
- チェック1: 気道確保※1 股あてとの間隔がある
- チェック2: 胸にこぶし1個分の余裕あり
- チェック3: バックルが股あての筒部に通され 確実にとめられている
- チェック4: 巻いたタオル等で調節した場合、お尻のお尻がズレていない



⑤お子様を寝かせ、腰ベルトを装着し、腰バックルを確実にとめてください。



- ⑥肩ベルトに腕を通して、首の後ろでサポートバックルを確実にとめてください。最初にサポートバックルをつかんでいると簡単です。
- ⑦抱っこひもの外側から、お子様の頭と背中を両手で支えて上体を起こしてください。
- ⑧肩ベルトを左右同じ長さに調節します。余ったベルトは伸縮バンドでまとめてください。



警告

⑨鏡を使ったり、介添えの方をお願いして、下記のチェックをしてください。

- チェック1: お子様の頭で、装着者の視界が妨げられない
- チェック2: 気道確保※1 の再確認
- チェック3: お子様の顔が装着者の胸に密着していない
- チェック4: 頭が左右に動かせる
- チェック5: お子様の手足が挟まれていない
- チェック6: お子様の股関節・足がM字形で、全体が無理な体勢になっていない



※1 気道確保: お子様の口や鼻がふさがれていない、のどを押し付けていない等、呼吸をしやすくすることです。

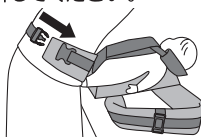
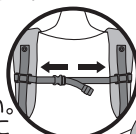
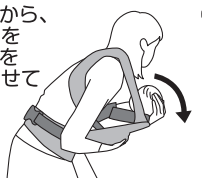
※お子様をおへそより上にすると、しっかりとつなげることができます。ご自身の最適位置を探してください。

「抱っこ」からのお子様のおろし方

注意 お子様をおろすときは安全な場所を確保し、行ってください。

装着するときの逆の手順でおろしてください。

- ①抱っこひもの外側から、お子様の頭と背中を両手で支えて上体を下げお子様を寝かせてください。
- ②首の後ろでサポートバックルを外し、肩ベルトを外してください。一度両方の肩ベルトを前に引っ張ると、サポートバックルをつかみやすくなります。
- ③腰ベルトの腰バックルを外してください。

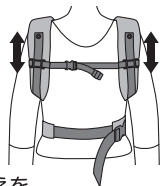


注意 おんぶするときには安全な場所を確保し、行ってください。

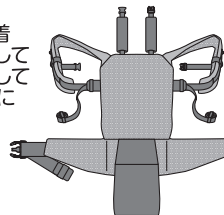
準備

①サポートベルトの上下位置、ご自分の快適な位置に調節してください。通常はだっこの位置より下側になります。サポートベルトの長さを調節してください。

※慣れないうちは他の方に介添えをお願いしてください。



②インサートパッドが装着されている場合は、外してください。内側を上にしてヘッド等の安全な場所に広げてください。



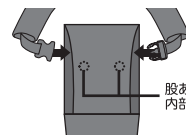
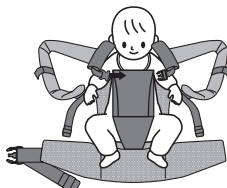
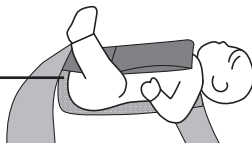
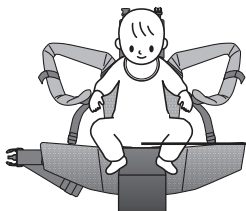
装着

①3ページを参照し、腰ベルトを立てて座面を作ってください。

②お子様の顔が抱っこひもの中に隠れてしまう場合は、タオル等を巻いた物を座面に敷いて調節ください。座面がお子様のお尻に当たるように腰ベルトを立てると、わかりやすくなります。

③ベビーハーネスを装着してください。

※6ページ「ベビーハーネスの調節」「股あての調節」を参照。



※ベビー肩バックルが胸部の中にあるようにとめてください。

※股あて内部ボタン(2箇所)を外してから胸部の中でバックルをとめてください。

注意 バックルをとめる際、左右のバックルに股あての布等を挟まないようご注意ください。

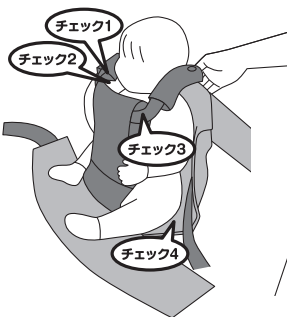
注意

④一度手を添えて座らせて、下記のチェックをしてください。

- チェック1: 気道確保※股あてとの間隔がある
- チェック2: 胸にこぶし1個分の余裕あり
- チェック3: バックルが股あての筒部に通され確実にとめられている
- チェック4: 巻いたタオル等で調節した場合、お子様のお尻がズレていない

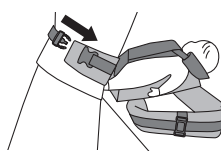
※1気道確保:

お子様の口や鼻がふさがれていない、のどを押し付けていない等、呼吸をしやすいことです。



⑤お子様を寝かせ、腰ベルトを装着し、腰バックルを確実にとめてください。

⑥肩ベルトに腕を通して、肩に掛け、静かに起き上がってください。

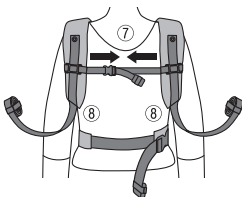


警告

⑨鏡を使ったり、介添えの方をお願いして、下記のチェックをしてください。

- チェック1: 気道確保※の再確認
- チェック2: お子様の顔が装着者の背中に密着していない
- チェック3: 頭が左右に動かせる
- チェック4: お子様の手足が挟まれていない
- チェック5: お子様の股関節・足がM字形で、全体が無理な体勢になっていない

⑦サポートバックルをとめてください。



⑧肩ベルトを左右同じ長さに調節します。余ったベルトは伸縮バンドでまとめてください。



「おんぶ」からのお子様のおろし方

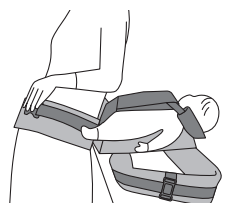
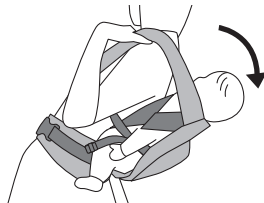
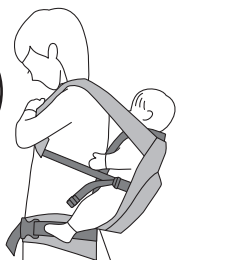
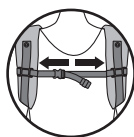
注意 お子様をおろすときは安全な場所を確保し、行ってください。おんぶではお子様が見えにくいので特にご注意ください。

装着するときの逆の手順でおろしてください。

①サポートバックルを外してください。

②お子様を寝かしながら肩ベルトを外してください。

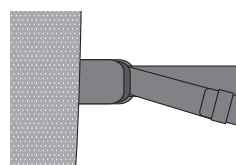
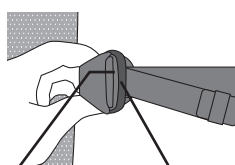
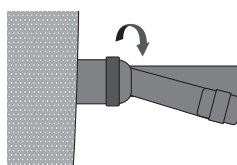
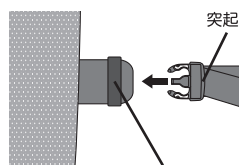
③腰ベルトの腰バックルを外してください。



安全バンドの使い方

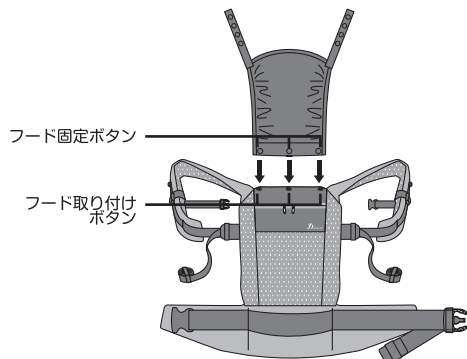
肩ベルトバックル(メス)、横抱っこバックルのカバーについています。万が一バックルが外れた場合に、一時的に保持する機能です。

- ① 絵の方向にバックルを挿入します。
- ② 安全バンドをバックルの突起にかけます。
- ③ 絵のように安全バンドの位置を確認します。

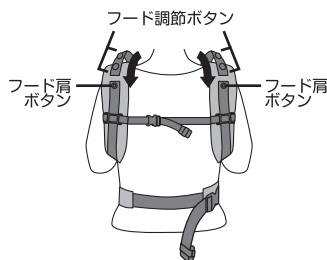


フードの使い方

- ① 本体のフード取り付けボタン(3ヶ所)にフード固定ボタンをとめます。



- ② 本体のフード肩ボタン(左右)にフード調節ボタンをとめます。
※最適な位置のボタンをとめてください。



- お子様を日差しから守ったり、首カクンを防止します。
- 使用しないときにはポケット等に収納したり、外して単独で洗えます。

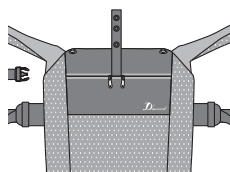


※着脱は無理に引っ張りせず、ボタンの近くを持ってボタンの垂直方向に着脱してください。

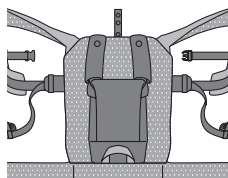
※別売のオプションフードで各種の色柄をお楽しみいただけます。

まるめる収納

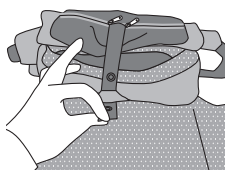
- ① ポケットの中からまるめるコードを取り出し、左右のポケットファスナーを中央部に寄せます。



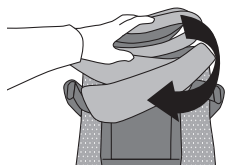
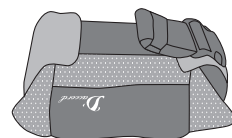
- ② 腰ベルトをつけたままで肩ベルトをもち、身体と並行にします。
- ③ 手前にまるめます。



- ④ まるめるコードを横抱っこループ(赤)に通して、まるめるボタンをとめます。



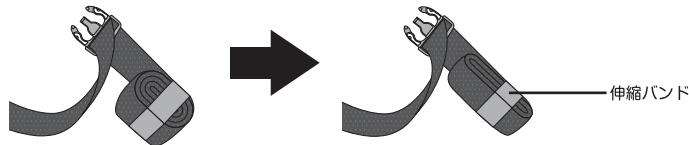
- ⑤ 腰ベルトを外して、腰ベルトで巻くとさらに小さく収納できます。



※1週間以上保管するときは、販売されていたときと同様にたたむかハンガーに掛け、肩ベルト等に負荷のかからない状態にしておいてください。変形することがあります。

余ったベルトの処理方法

- その1** 余ったベルトが長い場合ひとつにまとめるループの長さを長くすると、薄いループで巻くことができます。



- その2** 頻繁に長さ調節が必要でなくなった場合は、以下の様にまとめるとすっきりまとまります。

- ① 伸縮バンドをベルトの端からかぶせます。



- ② オスバックルを伸縮バンドに通します。



- ③ 伸縮バンドの位置とループの大きさを適当に調節します。



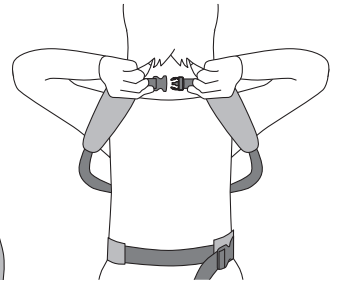
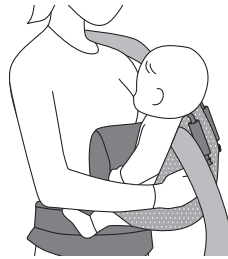
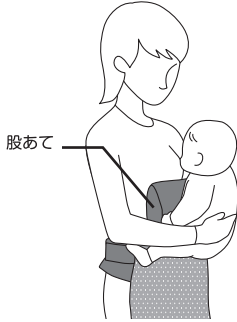
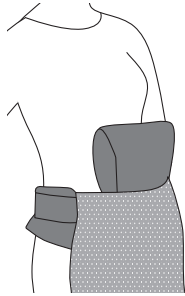
その他の便利な使い方

立ったままでの「縦対面抱っこ」装着

腰がすわって、お子様が自分で抱っこされる姿勢を取れるようになってからは、ベビーベッドやソファが無くても装着ができます。

注意 なるべく低い姿勢で、安全な場所で行ってください。
最初は、肩ベルトの長さをやや長めに調節しておきます。

- ①腰ベルトを装着し、股あての上部を、腰ベルトにはさんでください。
- ②お子様を抱き上げ、股あてを装着者との間にはさみます。
- ③片手でお子様を支え、片側ずつ肩ベルトをかけます。
- ④ベビー肩ベルトは外側にたらしめます。
- ⑤サポートバックルをはめます。(両手が使えるようになります。)一度両方の肩ベルトを前に引っ張ると、サポートバックルをつかみやすくなります。

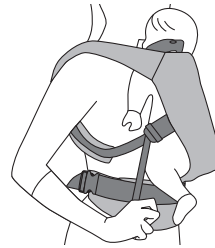
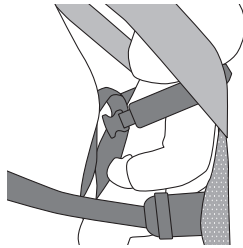
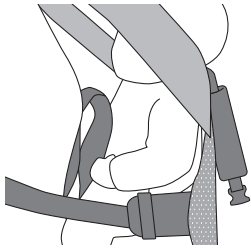


⑥股あてを引き上げます。

⑦股あての中で、ベビー肩バックルをとめます。

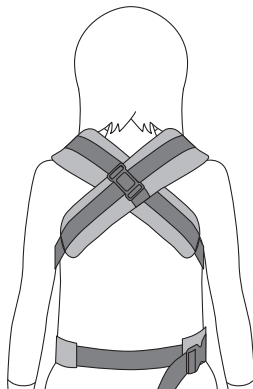
⑧肩ベルトの長さを調節します。

⑨「縦対面抱っこ」に書いてあるチェックポイントにしたがって、確認をしてください。
①で股あてを腰ベルトにはさまずに、②で股あてをお子様との間にはさめる場合には①と⑥を省略できます。



肩ベルトのクロス装着

昔ながらのバッテックロスで、サポートベルトを使用しなくても安全に快適に抱っこができます。



方法1 あらかじめ肩ベルトをクロスに装着してもぐりこむ方法です。ベッド等が使用できる場合に可能です。

- ①6ページの「縦対面抱っこ・おんぶの形態」の③で、肩ベルトバックル(オス)を逆の肩ベルトバックル(メス)に差し込み、ベルトを長めに調節します。
- ②サポートベルトは、一度お子様がいない状態で装着してみて、あらかじめ邪魔にならない範囲に移動させておいてください。
- ③7ページと8ページの「縦対面抱っこ」と同様に装着し、7ページの⑦、8ページの⑥の段階で、肩ベルトにもぐりこみます。以降は同じです。

方法2

- ①サポートベルトは、一度お子様がいない状態で装着してみて、あらかじめ邪魔にならない範囲に移動させておいてください。
- ②肩ベルトバックル(オス)を逆の肩ベルトバックル(メス)から引き抜き、ベルトを長めに調節します。
- ③上記の「立ったままでの「縦対面抱っこ」装着」の③の段階、または7ページの⑦、8ページの⑥の段階で、肩ベルトを逆側にかけて、肩ベルトバックル(オス)を逆の肩ベルトバックル(メス)に差し込みます。以降は同じです。

お手入れ



30℃を限度とし、洗濯機(非常に弱い洗濯)か、やさしく手洗いをしてください。



漂白しないでください。
タンブル乾燥機は使用しないでください。



遠心脱水の場合は短時間で実施し、形を整えて日陰の吊り干しをしてください。



アイロン掛けはできません。
ドライクリーニングはできません。



ウェットクリーニングができます。
(非常に弱い処理)

●色落ちする場合がありますので他のものとは別に洗ってください。

●洗濯ネットを使用し、すべてのバックル類をはめ、無蛍光洗剤を使用してください。

●洗濯すると縮むことがあります。

●軽い汚れは、湿った布でたいて落としてください。

●生地表示等は、製品の洗濯表示ラベルを参照ください。